

旅する工具屋



第一話：疲弊した駐在員，古都でトマトを食べる。

突然ですが，「Εξοδος」を読めますか？

おそらく，すんなり読める人はそれほど多くはないと思います。私もいまだに読めません。これはギリシャ語の「出口」，英語だと Exit です。それ以上でも以下でもない言葉ですが，2013 年の 5 月にアテネ空港の出口にいた私には大きな意味を持っていました。自分の知らない世界がこの出口の先にある，いま自分は非日常の時間にいる，という事をこの「読めない」言葉から感じたのです。

アテネ空港の出口からさらに遡る事およそ 1 年半，工具屋の私は仕事でドイツに赴任しました。不安もありましたが，期待や希望の方が大きく意欲的な赴任であったと言えます。しかし理想と現実の差は考えていた以上に大きく，お客様扱いされていた赴任当初から半年も経てば慣れない英語，分からないドイツ語，異なる生活習慣，食文化などなど様々な事にすり減る日々を送ります。日を追う毎にキツく感じる駐在生活，リフレッシュしようと外に出ても聞えてくるのは当時ストレスに感じていたドイツ語。快方に向かう手段を見出せずにいました。

このまま居着いたら潰れてしまう。どこか遠くへ，と飛び立ったアテネ。この初めての一人旅をきっかけに私はこの先 40 か国以上を旅する事になります。このエッセイは完全に私の個人的な旅行記ですが，辛い駐在生活を送られている方・送られた方，旅行先を検討中の方など，どなたかの目に留まる事ができたなら幸いです。

初めての一人旅に際して，まず決めたことはスーツケースを持たない事でした。そもそも私服だけなら嵩張らないですし，何ととってもビジネスの匂いが染みついた箱を引き摺って歩きたくない，そんな気持ちが強かった事をよく覚えていています。

アテネ空港を出て電車でシンタグマ広場駅に着くと，私を待ち受けていたのは猛烈な日射しでした。雲も無ければ日陰も無く，さらに困ったことに私は水を持っていません。とりあえず露店の陽気な店員さんに声をかける事から私の冒険はスタートしました。

イスラエルからの移民だと語る店員さんは極めて饒舌で，オススメのタヴェルナ(大衆食堂)や，政治の不満，彼の人生の方程式まで色々話してくれました。ただ単にヒマだったのかもしれませんが。何はともあれ必要なサングラスと水を手に入れて旅は軌道に乗った…ように見えます。今の所は。

アテネと言えば何を想像されますか？多くの方が紀元前の神殿を思い浮かべられる事でしょう。私も例にもれずアクロポリス・パルテノン神殿を目指して歩きました。地図上では徒歩圏内でも実際は標高差があり，また 36 度を上回る気温の中，滝のように汗が流れます。朝 10 時少し前，疲れ切った自分を迎えてくれたのは美しい神殿…ではなく「今日は 12 時開場にする」という衝撃の一言でした。

2 時間弱，サウナの様な環境に耐えた後で神殿と感動の出会いを果す訳ですが当然フラフラ。いくつか他の神殿に立ち寄り街に戻る頃には汗が乾いて白い塩が身体に着いていました。何となく入ったタヴェルナでとりあえず頼んだトマトサラダ，この味は一生忘れられません。切っただけの真っ赤なトマトにオリーブオイルと塩，イタリアとも少し違うガツンとしたトマト味の濃さに驚きました。



一つ勘違いをしていた(と気付く事になる)のはパルテノン神殿の開場時間変更を「大きな事件」だと思っていた事です。リカヴィトス丘のケーブルカー，港のレストラン，ホテル，本屋，鉄道・バス，至る所で「今日は～時からにした」とか「今日は来ない・やらない」等々，急な変更やドタキャンは普通であり，むしろ日常でした。

自分の計画が強制的に変更・中止を余儀なくされると苛立ちます。しかも汗だくになって頑張って訪れた先で「今日はやめた」と平気な顔で言われればなお更です。その度に近くのお店で一番安いトマト(とたまにビール)を注文して，ぶつぶつ言いながら食べる訳ですが，何度食べても痺れる美味しさに驚きました。そして繰り返すうちに理不尽な場面にも，あっけらかんとして「ふーん」と言える様になっていたのです。

これが旅行中の単なる場慣れなのか，暑さで疲弊しきって鈍感になったのか，開き直りなのかは分かりません。ですが結果として，不思議とトマトに結び付いたこの時間のおかげで自分の視野が少し広がったと言うか気持ちの容量が少し大きくなった事は間違いありません。



ドイツに戻り，駐在員としての日常に戻った時，ある種の理不尽さが無い事に肩透かしの様なものを感じました。言えば通じるし，依頼した事もアテネに比べれば格段にすんなり運ぶわけです。こんなスムーズな生活の，何に私はストレスを感じていたのでしょうか，何に潰されようとしていたのでしょうか？

かくして私は新しい気持ちで新しい駐在生活をスタートすることになりました。英語も少し使えるようになり，行動圏も広がりを見せ始めます。今後の連載は世間一般の知名度ではなく，私個人的にとって印象深い国や街に触れてゆきたいと思っています。拙いエッセイではありますが，お付き合い頂ければと思います。

17chandler